

われわれは関東大震災から何を学ぶか？

2023(令和5)年 6月 23日 (金) 13:30~16:30 (開場 13:00)

会場：名古屋大学減災館 1階減災ホール・オンライン

わが国の近代最大の都市被害をもたらした関東大震災から 100 年。この過去の大災害から現代を生きるわれわれは何を教訓として学び社会経済活動にどのように生かすべきか？

そのためには、関東大震災の被害様相を正確に整理した上で、その後 100 年の時を経た、技術開発による社会経済の効率化と都市の発展や、地域コミュニティの希薄化など人間社会の慣習の変化といった、さまざまな社会の変容について紐解く作業が必要である。

本シンポジウムでは、関東大震災の被害様相を再確認した上で、その後の各分野における大規模災害克服に向けた努力を振り返り、われわれは関東大震災から何を学び今後どう生かしていくべきかを考える。

■プログラム

司会進行：都築 充雄 (センター特任准教授)

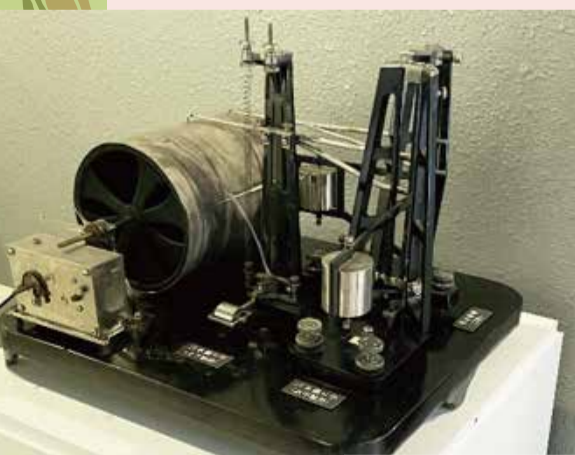
- 13:30~13:35 開会挨拶 飛田 潤 (センター長・教授)
- 13:35~14:30 基調講演「関東大震災と復興を俯瞰する」
武村 雅之 (センター特任教授)
- 14:30~14:40 休憩
- 14:40~14:55 講演 1「1923 年関東地震に関する測地観測の今日的意義」
鷲谷 威 (副センター長・教授)
- 14:55~15:10 講演 2「建築耐震技術の発展と現在」
長江 拓也 (センター准教授)
- 15:10~15:25 講演 3「ライフラインの発展と現在 (仮題)」
平山 修久 (センター准教授)
- 15:25~15:40 講演 4「自治体間の広域連携による災害対応」
阪本 真由美 (兵庫県立大学教授)
- 15:40~15:50 休憩
- 15:50~16:25 ディスカッション 講演者、飛田センター長、都築特任准教授
- 16:25~16:30 閉会挨拶 田代 喬 (副センター長・特任教授)



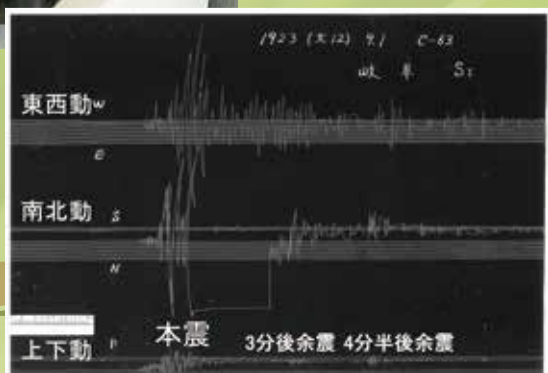
街の 71% が焼失した小田原町の焼け跡 (金井圓『神奈川の写真誌』、1971)



地方へ避難する人々 (震災絵葉書より)



30 年前に岐阜地方気象台で発見した今村式 2 倍強震計記録 (岐阜地方気象台蔵コピー) 東西動と上下動は完全な記録▼



▲国立科学博物館と岐阜県立博物館にだけ残る今村式 2 倍強震計の実物 (岐阜県立博物館で武村撮影、2022)

■開催形式：現地参加 + zoom ウェビナー (オンライン)

■参加費：無料

■申込方法：下記 URL または下記 QR コードよりお申込みください。

ご登録いただきましたメールアドレス宛に参加方法をご案内します。

■申込 URL: <https://forms.gle/jxchuSkV4KDH4nvP9>

■申込期限：2023 年 6 月 21 日 (水) 23:59 まで

主催：名古屋大学減災連携研究センター

問い合わせ：減災連携研究センター広報グループ

MAIL: inquiry-academy@gensai.nagoya-u.ac.jp

<http://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/?p=23750>

